

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	学生交流及び欧州コーポラティズム現状調査のためのドイツ派遣
代表者名	徳丸夏歌
事業概要 (600 字程度)	<p>京都大学経済学部／大学院経済学研究科との部局間交流協定校であるゲーテ大学経済学部／大学院経済学研究科を訪問し、Cornelia Storz 教授、Peter Ganea 博士らと今後の学生交換交流の可能性等について協議する。また経済学研究科東アジア持続的発展研究コースと類似したプログラムである Modern East Asian Studies を視察し、東アジアコース運営の参考とする。同じく部局間交流協定校であるハイデルベルグ大学アジア・ヨーロッパクラスターを訪問して共同学生セミナーを開催し、学生間交流および参加学生の国際的な情報発信力の育成を図る。またハイデルベルグ大学の Harald Fuess 教授らと今後の交流について協議する。</p> <p>カッセルの環境企業である SMA Solar Technology AG やヘッセン州経済産業省、フランクフルト Deutsche Bank 等の訪問・見学・インタビューを行い、欧州コーポラティズムの代表的な存在であるドイツの経済事情、経済政策、環境問題への取り組みの現状を視察する。またアポイントメント交渉や質問票作成から学生に参加させることにより、海外調査の経験を積ませ、実践的なグローバル人材の育成に貢献する。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>2014 年 12 月 2 日は、SMA Solar Technology AG を訪問し、Mike Meinhardt 教授、Peter Hennings 氏らに同社の歴史(大学発ベンチャー企業として出発、発展)、環境関連製品(太陽光発電を用いた自家発電システムの構築)に関するレクチャーを受けた後、質疑応答を行った。12 月 3 日午前、ヘッセン州の経済環境省(Ministry of Economics, Energy, Transport and Regional Development)を訪問し、同省で再生可能エネルギー問題を担当する Friedrich Hanisch 博士、Andreas Meissauer 博士、Carola Carius 博士らへのインタビュー調査を行った。同省では 2050 年までに再生可能エネルギー 100%を目指して先進的な取り組みを行っており、その過程における行政としての苦労や創意工夫等について話を伺うことができ、また日本の福島原発の問題やドイツにおける反応等についても議論を行った。同日午後は Deutsche Bank AG を訪問し、同社の省エネへの取り組みを視察した。同社は本社ビルのリノベーションによってビル内における様々な省エネシステムを構築(送風システムによる温度調整、自動消灯システム、コンピューター制御によるエレベーターの効率的利用システム等)し、55%の省エネを達成しており、その現状をガイドと共に視察することができた。12 月 4 日午前は Markus Heckel 博士の案内でゲーテ大学の視察を行った後、Cornelia Storz 教授、Peter Ganea 博士と会食しゲーテ大学 MEAS の現状や京都大学の国際交流の現状について歓談した。午後は Storz 教授の講義に参加し、制度変化論についての議論を現地学生たちと行った。12 月 5 日はハイデルベルグ大学アジア・ヨーロッパクラスターを訪問し、学生共同セミナーを開催した。その後、Harald Fuess 教授、Steben Iving 博士、Bjoern-Ole Kamm 講師らと国際交流について意見交換した。12 月 5 日はハイデルベルグの老人ホームである Hedwig Pflegeheimat を訪問し、Kathrin Reidel 氏、Andreas Lauer 氏らにドイツにおける老人介護の現状や労働問題(人手不足)についてのインタビューを行い、同施設を視察見学した。本派遣プログラムにより、参加者はドイツにおける私的-公的レベルの協同的な経済政策、環境、介護問題への取り組みの現状に関する知見を深めることができた。また訪問大学との間で学生-教員レベルでの交流を行うことができ、総じて実り多い派遣であったといえる。</p>